平成24年産米品質改善技術情報　第3報

生育の状況と気象予報

本年は、生育期の低温の影響により生育は遅れており、**出穂期は平年に比べ1～5日遅く**なりました。現在の生育ステージは、平坦部では傾穂期、中山間部では出穂～穂揃い期となっています。

1か月予報（8月3日名古屋気象台発表）では、今後、気温は平年並みか高いと予想されています。

登熟期の重点対策

白未熟粒の発生軽減のため、下記の水管理が必要です。
また、**斑点米カメムシ類の増殖に好適な状況が続いており、注意が必要です。**

1. 白未熟粒の発生軽減のため下記の水管理を行いましょう。

飽水管理

出穂後25日間は少なくとも田面の足跡に水が残る程度に管理します。

早期落水防止

落水時期は収穫前７日とし、その後も田面が乾くようなら走り水を行いましょう。

2. 斑点米カメムシ類の増殖に好適な状況が続いています。

防除以降も斑点米カメムシ類に好適な状況が続いていることから、圃場を点検し、追加防除を行います。

（収穫が近づいている場合は農薬の使用期限に注意！）

3. 適期の収穫を行います。

コシヒカリの収穫適期は穀粒水分26～28％です。収穫時には水分計で測定し適期収穫に努めましょう。

本年はやや生育が遅れているため成熟期は平年に比べ2～4日遅いと見込まれます

平成２４年８月３日
三重県産米品質改善対策会議